

水資源機構 低入札価格審査委員会 審議概要

平成 21 年度第 2 回低入札価格審査委員会については下記の通り開催され、議事については審議の後に了承された。

日 時：平成 22 年 3 月 24 日（水） 15：00～16：40

場 所：水資源機構本社 1003 会議室

委 員

委員長 小澤 一雅 東京大学大学院工学系研究科社会基盤学専攻 教授
尾野村 祐治 ジャーナリスト
(欠席)高田 敏明 弁護士

(五十音順敬称略)

議 事 1：【低入札価格審査委員会の設置に関する規程の改正について】

議事の概要：低入札価格審査委員会は、委員会において意見の具申があった場合のみ、これを公表することとされていたが、今後は、意見の具申のみならず審議の概要についても公表するよう設置規程の改正を行いたい。公表は機構ホームページにて行うこととし、改正後の設置規程は、後日の施行となることから、今回の委員会の審議概要の公表については、本委員会での意思決定をもって公表の根拠としたい。

審議の概要

委 員：本来、公表するべきものと思っているので、特に意見はない。
事 務 局：本日、欠席されている高田委員には、事前に説明に伺い、本案については了解を頂いた。その際に、特段の意見等はいただいている。
委 員：今後は、規程の改正に沿って、審議概要について公表を行っていただきたい。また、本日の議事概要についても公表することとされたい。

議 事 2：【大山ダム付替県道小浦岩地区補強土壁工事の調査結果及び対処方針について】

調 査 結 果：重点調査において、低入札価格の理由、工事内訳書等について確認した結果、技術提案に基づいた見積となっており、コスト縮減も図られている。また、直接工事費は適切な積み上げがなされており、資材単価、機械経費についても適切に積算されている。併せて、一般管理費については自社の努力に基づくものであることから、協力会社への負担は生じないものと判断できる。これらのことから、「品質低下」、「賃金の不払い」、「下請けへのしわ寄せ」等の恐れがなく、当該契約の内容に適合した履行が行われると判断できる。

審議の概要

- 委員：業者は一生懸命頑張ってコストダウンしているという印象を受ける。不況の現在のように公共事業が減少しているときは、予定価格が、実勢よりも相対的に高くなってしまっているということが生じているのかもしれない。公共事業の発注者が、発注を減少させていることが、コストダウンを厳しく要求しているという側面があるのかもしれない。
- 事務局：高田委員から、本件については、機構の判断のとおりで問題はないということと了解をいただいた。理由としては法的な意味での問題点が見つからないからであるということであった。
- 委員：当該工事の前後の工事と同じ業者が落札したということで、コストが下がる実例に見える。なるだけ大きいロットで発注した方が国民から見ると都合が良いような印象を受けるが、今回の発注ロットはどう考えたのか。判断基準はあるのか。
- 事務局：工事を行うための設計の順序等があり、他工事との関係や段取りの問題から基礎部を先行して実施している。道路工事では、全線を一気に工事することはできないので、分割して同時に施工するなどした方が効率がいい場合がある。
- 委員：基礎部と上部を分けなくて実施するのは、実際に困難であるのか。
- 事務局：今回の事例では、基礎部の工事を行わないと実施できないバイパス水路工事があり、当該バイパス水路工事の工期が事業を進める上でクリティカルとなっていた。バイパス水路工事の工期は厳しい状況であり、上下一括であるとバイパス水路の完成が遅れる可能性があったため基礎部を先に実施した。
- 委員：今回、重点調査の対象となった業者は、技術点がずば抜けて高いが、これは何故か。
- 事務局：客観的に評価して、すばらしい提案があった。基礎部を実施した業者であることから具体的な提案もでてきている。また、企業の技術力（客観的事項）においても、過去の工事成績も高く、水資源機構理事長表彰も受けているなどで点数が高くなった。
- 委員：表彰による優遇は何点くらいになるのか。
- 事務局：今回の発注においては、技術点は、20点が満点で、そのうち技術提案が10点、企業の技術力（客観的事項）が10点となっている。企業の技術力（客観的事項）10点は、その内訳としての詳細項目合計点が満点で20点であるが、最も点数の高い者を10点に換算している。表彰の評価点は20点のうちで3点である。
- 委員：事故を起こした場合にはマイナス点もあるのか。
- 事務局：過去に口頭又は文書注意を受けた場合はそれぞれマイナスする。工事成績にも影響がある。
- 委員：当該業者が優れていた部分は何か。
- 事務局：企業の高度な技術力（客観的事項）の得点が高いことに加え、技術提案も、

班体制や施工機械の工夫による工期短縮と、安全対策がともに得点が高かったことから、技術点はトップであった。

委員：工期短縮の技術提案による費用の増加はないのか。

事務局：増加はあるが、他のコスト縮減により相殺されている。

委員：本工事の施工時は、機構としてどの様に対応するのか。

事務局：施工途中での確認の頻度を増やすなど、入札説明書で示している監督体制の強化等を行う。

委員：委員会としては、事務局案を了承する。